
黒窟姿饗禄

レッドリバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒窯姿饗禄

【Nコード】

N6911C

【作者名】

レッドリバー

【あらすじ】

槇原先生率いる猟奇集団がおりなす洗脳怪奇ノベル

一章二十三節（前書き）

この話はフィクションです。
実際の登場人物、団体は架空の人物です。

一章二十三節

イタイイタイイタイイタイ

私は18番の宇宙の心理です。今日は家に帰ると家内が脳が痒い脳が痒いといっていたので

知り合いの宗教法人の槇原先生にお願いしました。槇原先生は家内の耳に太い鉄棒を入れ

てぐりぐりしていくと家内の耳から脳髄液がどばつと出て来て「これは悪性の菌が染み込

んでますね」と言われたので全部出すようにお願いしました。出している最中も家内は世

にも聞いたことないような悲鳴を上げ続けて、槇原先生はどうずる事なく脳髄液を抜き続

けて全部抜く頃には家内もカラパ Gos 様の真意と一つにして、白い目をして悦楽の表情を

してこの身を捧げて絶命しました。私は槇原先生にお礼をいい、早速依頼料の話をしまし

た。「わたしの家はとても貧困なので依頼料は払えません」「まあ前々からそのことはお

聞きしていましたので、どうでしょうその身をささげるのは?」「え? わ、わたしもカラ

パ Gos 様の真意を受け止めさしてくれるのですか?」「わたしはうれしさのあまり目の前が

見えなくなりました。ただ、槇原先生はそれだけでは足りないといっていたので私の娘達

を渡すことも承諾しました。娘達もカラパ Gos 様の真意に触れられてさぞ満足するでしょう。

1・痛い痛い！！これぞまさにこの世の意識か！痛いイタイイタイ
イタイ……………

儀式のまえに榎原先生はあそこの世界に持ち込んではいけないものを
おしえてくださり、

わたしはそれに従い生爪をひきちぎりました。痛みありましたが後
のカラパゴス様の真意

を聞けることを思うとうれしさの方がまさってました。なんとかす
べて生爪を剥がし終え
てました

2・私は……………あなたも……………あなたもあなたもあなたもあな
たもアナタモ呪われ
よ！！

次の作業は目がいららないと言われたので榎原先生受け取った専用道
具で眼球を引き抜きま

した。ふたつとも引き抜くとわたしの中から光が亡くなりかわりに
温かいなにかがふって

きました。榎原先生はそれをあの御人から祝福です。といっていた
ので素直に信じます。

いまや私の中で光と呼べるものはありません。ただ真意だけが私を
生かせてくれます。私

は満足です。満足です満足です満足です満足です満足です満足です
満足です満足です満足

ですマンゾクデスマンゾクデスマンゾクデスマンゾクデスマンゾク
デスマンゾクデスマン

ゾクデスマンゾクデスマンゾクデス……………満足
ですか？

一章二十二節（後書き）

感想くれるとうれしいです。

一章二十四節前半

愛していますか？

私はカラパゴス様と常にいます。カラパゴス様はわたしをあたたかくつつみます。カラパゴス様カラパゴス様カラパゴス様カラパゴス様カラパゴス様カラパゴス様カラパゴス様カラパゴス様……

3・さあおいで…

今日は娘を連れてきました。槇原先生は娘を受け取るとカラパゴス様のいる離れへと移動しました。移動中にベンチに誰かいるのを感じました。あれはきっと妻に違いありません。妻は動こうとせず、私にほほえてくれます。そうに違いありません。娘も笑っています。顎が外れるまで笑っていました。ぴくりとしない妻に別れを告げてました。「つきましたよ」槇原先生はそうおっしゃられてあとは自分達の力で見るようにおっしゃられました。

娘はカラパゴス様をみたたん日本語ではない歓喜な声を上げて、自分の臓器を爪でとり出すようにしています。私は目が見えませんが娘の成長を喜び、目があった部分から手を入れて耳の内部を取り出しました。その瞬間平行感覚はうしなわれて私は仰向けになりました。カラパゴス様がほめています。

槇原先生は娘になかなか臓器を取り出されない様子を見て斧を貸してくれました。やさし

いです。娘は斧を借りると「カラパゴス様————!!!!!!」と叫び腹を十字に切り裂

き中の臓器を出しています。槇原先生は「臓器をこちらに」と言われて斧で腹を切り裂い

ている娘の隣で銀の皿に臓器を移しています。きっと妻も喜んで喜んでイル・喜んで

・喜び・喜び・ヨロコビ・

よよよよよよよよよろよろこびびびびびなぜ、カラパゴス様はあんなに優しいのですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6911c/>

黒窯姿饗禄

2010年10月16日00時15分発行